



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『ロータリーは分かちあいの心』

～Rotary Shares～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年5月26日

No. 35

『一歩一歩進もう』

～Let's Move Forward Step by Step～
東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T



平成20年5月12日

卓話 『イメージコンサルティングの手法と現状』

カラー&イメージアップコンサルタント

田中 暁子 様



皆様こんにちは、イメージアップコンサルタントの田中暁子でございます。今日はイメージアップという仕事の内容を通じて、ご自身を振り返っていただけたらと思います。日本はまだこのコンサルティングが普及しておりません。豊かな人間関係に必要なことなのに、なかなか一般化されないのが現状です。

人は出会いの中で人間関係を築くわけですから第一印象はすごく重要です。人間の第一印象は3秒から3/5秒で決まると言われます。そんな短い時間で印象の85%がインプットされてしまう。更にこれはラベリング現象を伴いますから、はじめにマイナスイメージが入ってしまうと、それを払拭するのに8回分の良い印象が必要だそうです。如何にイメージマネジメントが大事かということですね。

では人間はどのような順序で第一印象を持つのでしょうか。これはもう異論のないところで外見と態度ですね。この二つで85%から90%が決まります。外見では服装が最初の情報です。色、形、素材、着こなし。そして日本人が不得意なのが態度です。日本人は自然でいいみたいなのところがあって、しっかり教えてもらったことがない。欧米では母親がしっかりとサンキュー、エクスキューズミー、プリーズの3つの言葉とスマイルを躡けると言われます。スマイルは万国共通の友好信号です。眼鏡やメイクで印象を変えることもあります。あごも上げ方によって自信に満ちた顔になったり傲慢になったりします。イメージコンサルタントはこれらのアドバイスとトレーニングをさせていただくのが仕事です。

このイメージコンサルティング、アメリカの大統領選挙でケネディ、ニクソンの印象が大変違ったということから開発が進み、ビジネス化されました。1983年に日本に入ってきたとき大変に脚光を浴びたのですが、それまで日本には似合う色という概念がなかったので、マスコミはこぞって

色のことを取り上げました。ですからイメージコンサルティングは色分析だと思われる方も多いと思います。

イメージ分析をするとき最初にカラー分析をいたします。約120色あるカラー・ドレーブを掛けて映



り具合を見るものです。好きな色と似合う色は違うことが多く、私の経験では大体6、7割違えます。好きな色は自分の主観なんですね。これはその方が生まれてからの経験で決まります。似合う色は客観ですから好き嫌いとは関係ありません。人があなたを見て生き生きと見える色。これは生まれたときにほぼ決定しています。それは人間のもって生まれた体の色だから。肌、髪、目の色のほかに歯の色や頬の色などすべての身体的な色との対比を見ます。肌の色も着ているものの色によってくすんで見えたり明るく見えたりします。よく何色が似合いますかとお聞きになる方が多いのですけれど、赤が似合う黄色が似合うということではなく、赤ならどういふ赤が似合うか、どういふ黄色が似合うかということでございます。

今、人間関係が悪くていろいろな犯罪が起きています。このイメージメイクで好感度を上げれば、もっと世の中違ってくると私は思います。ですから是非学校教育に取り入れたい。もう一つは高齢者。私はシルバーおしゃれ教室と称して老人ホームなどで20年やらせていただいておりますが、非常に生き生きと健康的になる。オムツをする期間も短くなります。医療費も少なくなりますから、これはもう本当に国家プロジェクトとしてやっていただきたい。これが私の夢でございます。